

# 選ぶ

知っておきたいキリスト教のことば (27)

「選ぶ」という言葉は日常の中で、辛口と甘口とどちらがいいかチョイスするとか、PTAの役員に選出されたといった具合に用いられます。しかし聖書の中で「選ぶ」という語は、特別な意味をもって用いられることが多くあります。



旧約聖書を見ると、イスラエル民族が「神（ヤハウェ）に選ばれた民」として描かれていることに気づかれます。その選びが、神さまによって計画されたものであると考えられているのです。

イスラエルという国は、とても小さな国でした。しかしそれにもかかわらず、神ヤハウェは一方的にイスラエルを自分の民としました。そのあたりの神学的な意味についてはまた別の機会に触れたいと思いますが、イエス様が地上に生まれ、その救いのみ手は全人類へと広げられていきます。

公生涯の中でイエス様は、ガリラヤ湖の岸辺で弟子たちに声を掛けられました。また、当時人々から嫌われていた徴税人も弟子として招きます。さらに病气の人や貧しい人々の元に行き、手を取って起き上がらせ、「わたしに従いなさい」と導かれました。

さらにわたしたち一人一人の心をもノックして、招いておられるのです。それが「選ぶ」なのです。

わたしたちは自分の力だけで神さまを知り、信仰を持っているわけではありません。神さまが主体的にわたしたちを呼び、導いてくださったから、わたしたちは神さまの存在に気づき、神さまに従って歩んで行けるのです。

わたしたちはみな、神さまによって選ばれています。「こんなわたしでもよかったら」と、どうぞその身を神さまに委ねてください。

次回は「エルサレム」です。お楽しみに。